

渴<sup>かつ</sup>しても盗<sup>とう</sup>泉<sup>せん</sup>の水<sup>みづ</sup>を飲<sup>の</sup>まず  
熱<sup>あつ</sup>しても悪<sup>あく</sup>木<sup>ぼく</sup>の陰<sup>かげ</sup>に息<sup>いき</sup>わらず

陸<sup>り</sup>機<sup>くき</sup>

裏面もご覧ください。

どんなに窮地に陥っても、  
人道に背くことはできない。

『猛虎行』

陸機

中国、西晋の文学者。呉の名門貴族の家に生まれたが、呉の滅亡後、洛陽に入る。宰相張華に認められ出世したが、政争に巻き込まれて殺された。張華に、詩才がありすぎると評されるほどの天才的作家であり、その詩は対句を用い修辭に富み、齊梁文学の先駆けとなっている。  
特に「文賦」は、中国文学理論の代表的著作として名高い。

「鈴振り」の知識の誘ひ

多くの神社では拝殿の中央に大きな鈴が吊るされています。では、拜む前に鈴を振るのは何故でしょう。鈴という道具の本来の目的は、楽器の一つとしてつくられたもので、形こそ違いますが世界中で用いられています。日本では楽器のほか、鈴の音に除魔の霊力があるとされ、神を祭るときに鈴が振られるようになりました。つまり、拜む前に鈴を振ることは「鈴の清らかな音によって参拝者を祓う」と同時に、「神霊の発動を願う為」と考えることが出来ます。

東京都神社庁

<http://www.tokyo-jinjacho.or.jp>



神社は心のふるさと

未来に受け継ごう「美しい国<sup>うるわ</sup>ぶり」